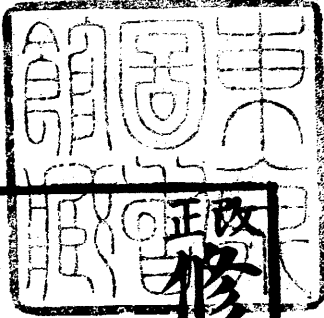


正

井上重實輯  
修身訓蒙

卷之二

K110.1
13
2



修身訓蒙卷二

井上重實輯

第一

○父母小孝を盡すは五倫

此初とし百行乃本初學訓

○教ふは孝と以てする

は天下の人此父たるもの

修身訓蒙卷二 第一

或敬ふに恵んたり孝經

○父母全<sup>ク</sup>く之を生<sup>ク</sup>子全<sup>ク</sup>く之と歸<sup>ス</sup>て或孝と謂ふべし其體を虧<sup>ク</sup>も其身を辱<sup>ス</sup>志めざるを全<sup>ク</sup>きと謂ふべし禮記

○孝を父を嚴<sup>ク</sup>とするより

大いなるを孝經

○父母に對<sup>シ</sup>て身色或和げ氣を下<sup>シ</sup>し温和或主と志<sup>ス</sup>る事ふべし家道訓

○人子たるに禮ハ冬ハ温<sup>ク</sup>よし夏ハ涼<sup>ク</sup>し昏に定めて晨に省<sup>ス</sup>る禮記

○出づるに事必告げ反き  
を必面をも同

○遊ぶ所事必常あり習ふ  
所ハ必業あり恒の言に老  
を稱せず同

○高きに登らず深きよ臨  
まず同

○君子生るときハ則ち敬  
みて養ひ死するときハ則  
ち敬みて享は 曾子語

○吾が親よお多ら い何く  
んぞ一日を離る可けんや

楊一語

○孝子を日試愛む 楊子語

○大孝ハ身を終るまで父  
母を慕ふ孟子

○孝は勞を辭する莫られ  
傳家寶

○父母之ヲ愛すまば喜んる  
忘まざり曾子語

○父母之を惡まを懼て怨

むあられ同

○子之の衆を謙たすまを  
あゝみ能く孝あり留心集

○子となりて傲れを必ず  
孝ある能く同

○子た留者ち父のいつく  
しと待てのち孝とかた

べからば紳瑜

○我よく青絲の髪わらわぞ  
へ盡すもたゞ親れ恩い數  
へ法くさざるあり傳家寶

## 第二

○をいふらよ臣我以て  
まゐるを天下乃人の君たる

者を敬ふゆゑんか祭孝經

○臣とわ堅きなり志を勵  
まして自から堅固小する  
なり白虎通

○身と致志と君よ事するを  
人臣の節なり北史

○父に事ふり資り以て君小

事ふるを其敬

ふしと同ト孝經

○我役を勤ふ

とえ己が事の

如くせよ 和忠經

○一生君恩の

中ふ何樂て何



をこの報いんと問ふ 傳家寶

○臣を君に不禮をうまへ

ず忠の不足哉患ふ 自修編

第三

○兄及び弟式て相好み

て相猶るちうれ 詩經

○心哉同志に力と竭して

爾我と分はすのれ 傳家寶

○教ふる小弟成以て去る

は天下此人の兄たる者と

敬ふゆゑんかり 孝經

○兄を弟あしきやうの愛と

薄くす處うらむ 初學訓

○弟を兄何しとて不敬

なすべからず同

○親戚と志こしみるや

可し 大和俗訓

### 第四

○朋友より一倫小屬す交れ

擇びて益と受處し 傳家寶

○互小善と去りめ惡とい



まゝは是朋友乃道なり 初學訓

○始に厚けきと終に薄く

は留る人み交るの道と失

ふかり同

○愛敬は行ふより信と本

とまべし 大和俗訓

○老者を見て老之と敬し

少者は見ると

之と愛す 時習編

○富むは貪き

者と忘きと貴

く志てを賤き

者は侮らず 初學訓

○君子交淡き



水の如く日久く志を情い  
よく真となる傳家寶  
○小人此口を蜜の如く眼  
と轉ずきを仇敵と似たり同  
○朋友を彼れ信の不足状  
うきへん我乃信の至ら  
ざると患ふ 自修編

第五

○文學を人倫乃首め大教  
此本なり太平御覽  
○人を幼みして之を學び  
壯にして之を行さんと欲  
を孟子

○知を身の内は夫なる寶

不<sub>レ</sub>梁 大和俗訓

○知<sub>レ</sub>求<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>と第一とま<sub>レ</sub>べ

一<sub>レ</sub>同

○人<sub>レ</sub>此<sub>レ</sub>學<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>孝<sub>レ</sub>義<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>て<sub>レ</sub>切<sub>レ</sub>々<sub>レ</sub>務<sub>レ</sub>め<sub>レ</sub>とな<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>べ<sub>レ</sub>

傳家寶

○若<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>向<sub>レ</sub>二<sub>レ</sub>詞<sub>レ</sub>章<sub>レ</sub>二<sub>レ</sub>偏<sub>レ</sub>滯

ま<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>ハ<sub>レ</sub>深<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>取<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>ど<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>か  
り<sub>レ</sub>同

○每<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>課<sub>レ</sub>業<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>按<sub>レ</sub>し  
て<sub>レ</sub>早<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>完<sub>レ</sub>う<sub>レ</sub>する<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>要<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>學堂  
條約

○背<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>字<sub>レ</sub>句<sub>レ</sub>明<sub>レ</sub>瞭<sub>レ</sub>か<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>と  
要<sub>レ</sub>す<sub>レ</sub>糊<sub>レ</sub>塗<sub>レ</sub>する<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>許<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>ぬ<sub>レ</sub>同

○聽<sub>レ</sub>講<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>精<sub>レ</sub>神<sub>レ</sub>を<sub>レ</sub>拵<sub>レ</sub>ん<sub>レ</sub>ど

て仔細に聽取要す學堂條約

○講書を心取潜めて細に

玩むんを要す同

○目も他處を視るなれ

童禮知要

○手に他物取玩ぶなれ同

○課程を常何る處も朝

更へ夕も變じ一たび作

一と心取るを得るなれ

洞學十戒

○大取慎みと小取忽せよ

處うらず 傳家寶

○始小勤めと終に怠るべ

からん同

○問と恥チて自ら是と考  
慮リからばバ 傳家寶

○師を輕んとて訓よ違ふ  
べからず同

○白日なき所を夜來已シに  
省みよ同

○無益乃事或爲レ法カうれ同

○無益れ書と觀るカうれ同

○今日學ビずとも來日あ

るカうれ朱子語

○今年學ビばシやシと來年ハ

梁トいふカま同

○一日ハ力ヲを用フれト便

ち一日の效ハあり畜徳録

○幼少より教訓せざるを老  
大に到ても馴良なり傳家寶  
○少成を天性の如し習慣  
は自然と成す論小學  
○學問をかまを水小上る  
船と撐るが如し一篙も放  
慢せばたのぶず畜徳録

○國語曰く善は従ふを山  
に登るが如し惡は従ふを  
山の崩るが如し

第六

○信を心と誠あるかり心  
まこと何を言行此上に  
何なる五常訓

○欺く心起らざれを善念  
自<sup>オ</sup>のら生ず 傳家寶

○善哉まるおとい易く善  
を行ひて其名聞を求めざ  
るハ難し 大和俗訓

○口と守る瓶の如しやは  
是言語哉亂さるるをいふ

朱子語類

○意哉防ぐ城の如しとて  
是外とり誘るるを恐るる  
といふ同

第七

○我身むと何を愛して人  
哉愛せざる處からば 大和俗訓

○人を愛して親まざれを  
其仁よ反れ孟子

○己が欲せざる所は人小  
施さなか終論語

○恕何をむ人我の私か  
傳家寶

○人れ急と救へを一芥も

千金も當る同

第八

○君子動けど則ち禮を思  
ひ行へど則ち義を思ふ左傳

○親を親むの殺賢は尊ぶ  
乃等を禮れ生ずるやこら

なり陸廷堪語



○凡そ人とかりてむ敬の  
 心をたえあて志むしも失  
 ふだのうに初學訓  
 ○人生一に謙と學び得む  
 終身受用しはくさず學訓  
 ○人此人たるゆゑんの者  
 は禮義なり禮記



○禮義の始む  
 容體或正さし  
 顔色と齊へ辭  
 令を順にする  
 あり同  
 ○揖讓周旋を  
 是儀文といへ

ぞも正よ人の敬忽と觀る

だー傳家寶

○常よ禮戔守り内行と正  
くまべー内行正ーあら  
ざれを外ふ善を行ふと皆  
いつたりとある家道訓  
○満を損を招き謙る益を

受く書經

○我恭けき必以人れ怒氣戔  
平かにすし我貪れ必以人の争

端を啓くに至る傳家寶

○自から謙を人愈服  
未自あり誇れを人必ず疑

ふ同

○身と終るまを路城讓と  
 ども百歩と枉カグクずク朱仁軌語  
 ○身を終るまを畔と讓れ  
 ぐも一段城失クるク同  
 ○今人の痛病を大段たぐ  
 是傲シかりシ留心集  
 ○傲の反と謙す謙ク乃ち是

對症此藥かり同

第九

○一食モ以て天下乃饑ウるウ  
 の城思ヒ徐旭齡語  
 ○一夜モ以て天下此寒ユるユ  
 のを思フだ一同  
 ○人城待ツは豊コのあクんを

要一自ら奉ずるを約  
らんを要に 傳家寶

○身のかざり小心減用ひ  
過す危うらば 大和俗訓

○人情りを侈を貪り力  
めを儉かれを富む 管子

○老子曰く足るを知るも

此を富む

○大厦千間なるも夜臥する

は八尺 省心雜言

○良田萬頃あふも日に食  
きるは二升 同

改正脩身訓蒙卷二終

明治十六年一月廿七日版權免許  
同 十七年十月八日改訂再版御届

編輯兼出版人

井上重實

佐賀縣平民

定價金八錢

東京赤坂區智池樓橋本重實

發兌人 柳心堂

東京府平民 山中喜太郎

東京赤坂區長屋四百三番地

賣捌人

山中市兵衛

山中孝之助

伊東武左衛門



正并上重實輯修身訓蒙

卷之三

K110,1
13
3